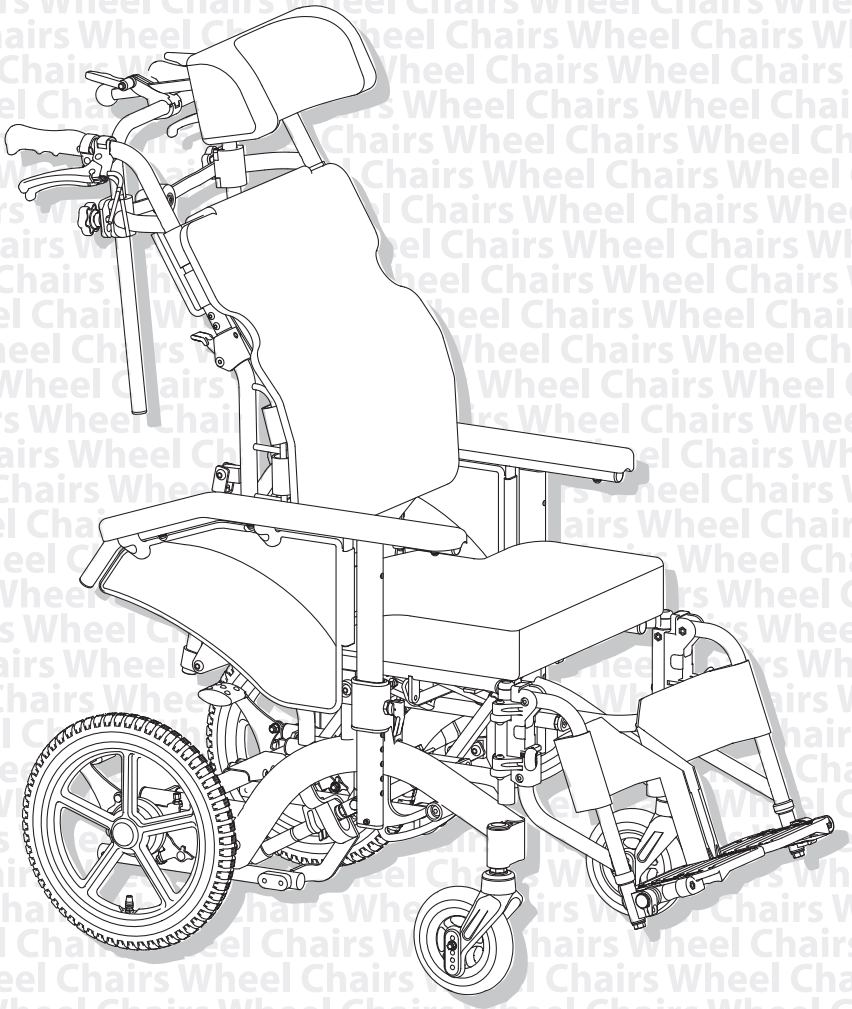
マツナガの車いす

コンパクト

マイチルトシリーズ

取扱説明書

保存用
保証書付



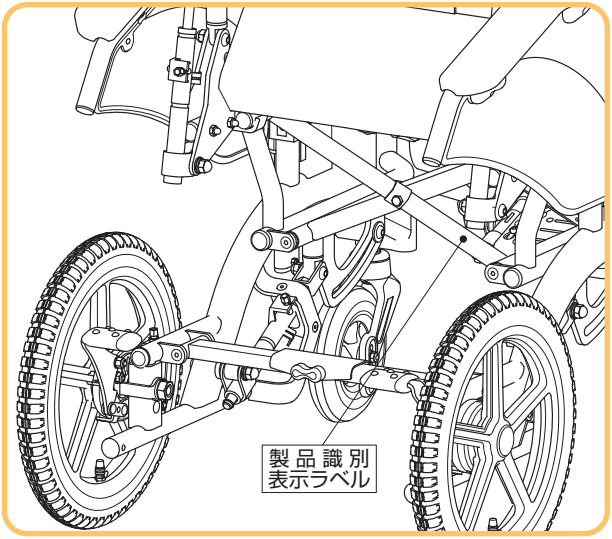
愛の輪
愛のいす
MATSUNAGA

2012.03

このたびは、(株)松永製作所の車いすをお買い上げいただき、ありがとうございます。
この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明されています。
ご使用になる前には、必ずお読みください。
また、保証書(裏表紙)が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。安全にご使用していただくために、点検・記録表が付いておりますので、ご自身・お買い求めの販売店(有料)等で定期的に点検をしていただくようお願いします。

車いすが、身体に合わない状態ではご使用にならないでください。
健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

購入された製品の型式をご確認ください。
型式は、下記位置に表示してあります。



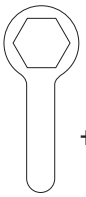
付属品

以下の物が同梱されているか、確認してください。

取扱説明書

六角レンチ
(対辺4mm)

六角レンチ
(対辺5mm)


サービススパナ
(13mm)

●万一、不足品がありましたら、すぐにお買い上げの販売店、または弊社にご連絡ください

●お買い上げの車いすは改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
●ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または直接弊社までお問い合わせください。

ご使用前に

出荷時には検査をしておりますが、ご使用前に次のご確認をお願いいたします。

○ 箱が破損したり、濡れたりしていないか。
○ 各部の破損・キズ、フレームのゆがみ、ボルト・ナットや部品の脱落はないか。
○ 付属品はすべて揃っているか。
○ タイヤの空気圧は適正か。(タイヤを指で押さえ確認してください。)(P.4参照)

もし異常があればご使用にならず、すぐにお買い求めの販売店または、弊社までご連絡ください。

目　次

安全にお使いになるためのご注意 …… 1
寸法一覧 …… 3
各部名称 …… 3
機能説明 …… 4
安全にお使いになるためのご使用方法 …… 4
ご使用の前に …… 4
車いすの拡げ方 …… 5
車いすの折りたたみ方 …… 6
車いすの乗り方・降り方 …… 7
介助の仕方 …… 8
その他の注意 …… 10
各部機能の使用方法 …… 10
ブレーキの使用方法 …… 10
ティルティングとリクライニングの方法 …… 11
アジャスタブルフットサポート（前後&角度調整） …… 12
フットサポートの高さ調整 …… 13
フット・レッグサポートスイングアウト …… 13
アームサポート …… 14
ヘッドサポート …… 14
車いすのオプション …… 17
もしこんなトラブルが発生したときは …… 18
車いすのお手入れの方法 …… 18
保管場所・保証・アフターサービス …… 19
車いす点検シート …… 20

安全にお使いになるためのご注意

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明

この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。

この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。

警告

（禁止） してはいけない

■故障、異常のある際は、直ちに使用を中止してください。
転倒･転落事故、ケガ等の原因となります。
■タイヤの空気圧が少ない状態で使用しないでください。
ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。
■バックサポート折りたたみのロックレバーにかばん等を引っ掛けないでください。
ロックが解除され、転倒･転落事故等の原因となります。
■フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車いすがバランスを崩し、転倒事故等の原因となります。
■車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
転倒･転落事故等の原因となります。

（強制） 必ずしていただく

■バックサポートの折りたたみのロックピンが、カチッと音がして、完全にロックされていることを確認してください。
転倒･転落事故等、ケガの原因となります。
■側溝の格子溝や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいてください。
車輪が溝にはまって、転倒･転落事故等の原因となります。
■ティルトレバーを操作するときは、グリップをしっかりと握って操作してください。
ティルトレバーを握った瞬間、ユーザーの体重の重みで座面がすぐに傾こうとしますので、使用者に不安感を与えないようにしてください。
■ティルト操作の時は、必ずブレーキ(ドラロック)をロックし、車いすが動かない事を確認してから行ってください。
車いすが動き、バランスを崩し、転倒･転落事故等の原因となります。
■リクライニング操作の時は、必ずブレーキ(ドラロック)をロックし、車いすが動かない事を確認してから行ってください。
車いすが動き、バランスを崩し、転倒･転落事故等の原因となります。

注意

（禁止） してはいけない

■バックサポートに重い物を引っ掛けないでください。
車いすが不安定になり、転倒･転落事故等の原因となります。
■車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをします。
■縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。
強度が低下し、車いすが破損する恐れがあります。
■バックサポートパイプのみで、キャスタ(前輪)を上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりし、転倒･転落事故等の原因となります。
■スピードをつけて、段差を乗りこえようとしないでください。
使用者が車いすから、転落して事故等の原因となります。
■車いすを横向きにして、上に物を置かないでください。
重みで車輪フレームが曲がったりして、故障の原因になります。

（禁止） してはいけない	■車いすで荷物を運んだりしないでください。 ■火気の近くに置かないでください。 タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。 ■急ブレーキ、急発進、急旋回をしないでください。 車いすに乗っている方が前方へ転倒･転落する恐れがあります。 ■ヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。 転倒･転落事故等の原因となります。また、強度が低下し、車いすの破損の原因となります。 ■縮み止め･ヘッドサポート部を持って走行しないでください。 転倒･転落事故、ケガ等の原因となります。 ■フットサポートの角度調整の時、隙間がある状態で使用しないでください。 フットレポートが外れ、ケガ等の原因となります。 ■調整後は、マクラがしっかりと固定されているか確認してください。 ■表記以外のボルトは調整しないでください。 マクラが固定されず、頭や首などを痛める可能性があります。 ■ヘッドサポートを持ち上げたり、無理な力を加えたりしないでください。 ■ヘッドサポートを押手として使用しないでください。
（強制） 必ずしていただく	■車いすを拡げた時、座パイプが収まっているか確認してください。 パイプが曲がったり、転倒･転落事故等の原因となります。 ■保管する場所には十分注意してください。 長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。 ■車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。 車いすが動き、バランスを崩し、転倒･転落事故等の原因となります。 ■坂道を下るとき介助者の方は、下り坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに走行してください。 前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転落･転倒事故等の原因となります。 ■側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスタが落ち込まないように注意してください。 車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒･転落事故等の原因となります。 ■移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。 ■フットサポートに足が乗っているか確認して走行してください。 ■必ず固定されている場所を持ってください。ヘッドサポート、アームサポート、フット･レッグサポート、操作レバー、ブレーキなどを持たないでください。 ■車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、乗っている人の転落には十分に注意してください。 ■リクライニングレバーやティルトレバーと制動用ブレーキレバーを間違えないようにしてください。 不意にバックサポートが倒れ、転倒･転落事故等の原因となります。 ■介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。 バランスを崩し、転倒･転落事故等の原因となります。 ■フットサポート調整の時のボルトは、必ず締めてください。 フットサポートが外れ、ケガをする恐れがあります。 ■フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。 フットサポートが脱落し事故等の原因となります。 ■フットサポートの高さは、地面より5cm以上でご使用下さい。 路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり、急に車いすが止まり、転倒事故等の原因となります。 ■スイングアウトを戻した時は、ロックが確実にされているか確認してください。 足を乗せた時、外れて足をケガする原因となります。 ■アームサポートを下ろす時は、肘パットの内側に指を挟まないようにご注意ください。 ■マクラを使用しない場合でもヘッドサポートパイプは使用してください。 フレームの破損の原因となります。 ■ノブボルトまたはスナップピンは必ずしっかりと締めてください。転倒防止パイプが必ず奥まで入っているか確認してください。 転倒防止が外れ、転倒･転落事故、ケガ等の原因となります。 ■安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。 衝撃などで転落し事故等の原因となります。 ■マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。 粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故等の原因となります。 ■糸くずや汚れが付いていないか確認し、付いている場合は取り除いてください。 粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故等の原因となります。

寸法一覧

品　番	キャスタ	大車輪	シート幅	前座高	後座高	アームサポート高
MH-CR3D	6	12	400	430	430	0･140～300
MH-PR3D	6	16	420	430	430	50･140～260

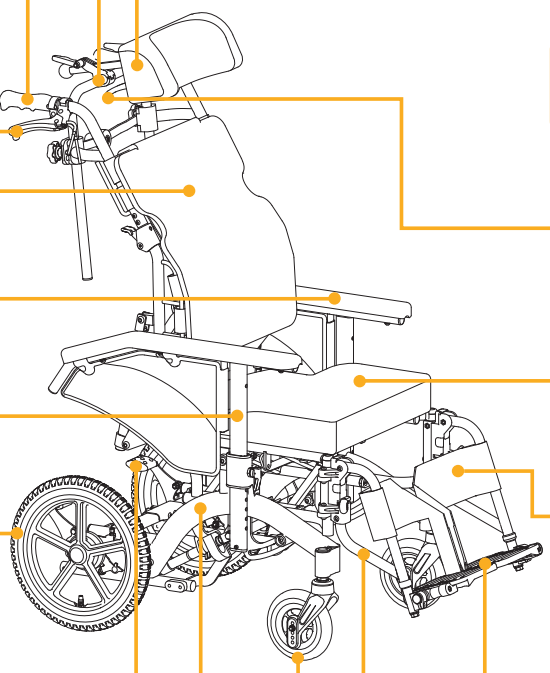
品　番	バックサポート高	フット長	シート奥行	全　高	全　長	全　幅	重　量
MH-CR3D	560	330～	380	1085	1020	530	24.5
MH-PR3D	560	350～	380	1085	1075	570	※①

※背を折りたたんだ状態の全高は、約215mm低くなります。
※寸法値は、パイプ上の高さです。
※全高にヘッドサポートは含まれておりません。
※アームサポート高は、20mmピッチです。
※①マイチルト･プロの重量は、セミオーダータイプのため、記載しておりません。
◎改良のため、予告なしに仕様を変更する場合があります。

品　番	ティルト角度	リクライニング角度	ティルト、リクラ最大時寸法	全　高	全　長
MH-CR3D	0～30°	90～125°		670	1415
MH-PR3D	0～30°	90～125°		590	1445

各部の名称

MH-CR3D



ヘッドサポートパイプ

グリップ
介助者が車いすを押すために使用します。

右：ティルトレバー
左：リクライニングレバー

バックサポート(背)
背をもたれかけるところです。

アームサポートパッド
肘を乗せるところです。

アームサポート
高さ調節 P.14

主輪(介助型)
駆動を伝える車輪

ティッピングレバー
キャスタを上げるため、介助者が足で踏んで使用します。
※主輪 後方先端部です

フットブレーキ(ドラロック)
乗り降りの時、車いすが動かないようにする為に使用します。

ベースパイプ

キャスタ(前輪)

ヘッドサポート
ヘッドサポートの使い方 P.14

バックサポートパイプ
拡げ方･折りたたみ方 P.5～6

制動用ブレーキレバー
介助者がスピードを調整するために使用します。
ブレーキの使用方法　P.10

シート(座)
座るところです。

レッグサポート
足が後方に落ちないように保護します。

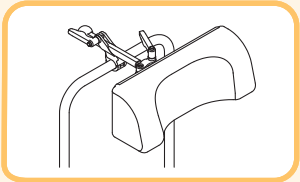
フットサポート
足をのせるところです。
フットサポートの調整　P.13

フット･レッグサポート
スイングアウト P.13

機能説明

〈ヘッドサポート〉

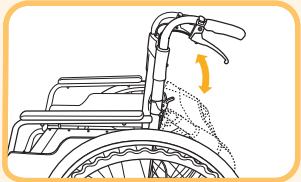
頭部を支持します。上下·前後·左右·角度を調整できます。



〈バックサポート〉

折りたたみ

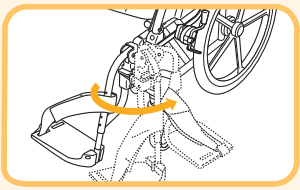
バックサポートパイプを折りたたみすることができ、自動車等への積み込みが容易に行えます。



〈フット·レッグサポート〉

スイングアウト

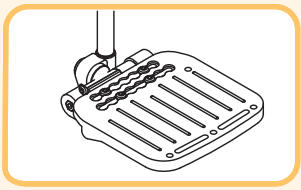
フット·レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、便器等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。樹脂製で、操作も簡単です。



〈フットサポート〉

アジャスタブルフットサポート

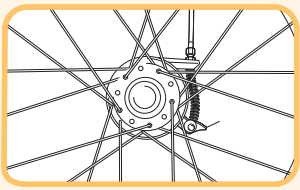
フットサポートの位置を前後調整できます。また角度も変更できます。



〈制動用ブレーキ〉

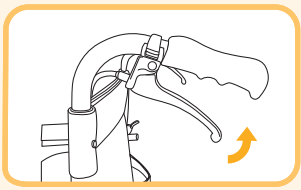
ドラム式ブレーキ

介助者のための制動用ブレーキです。走行中や坂道で速度を調整する際に使用します。



制動用ブレーキレバー

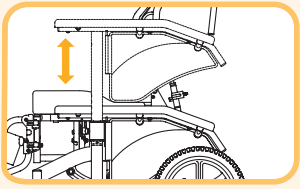
介助者が走行中(下り坂)の減速·停止に便利です。



〈アームサポート〉

高さ調節

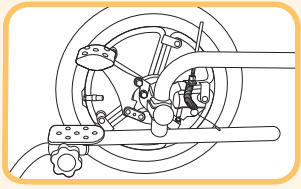
アームサポートの高さを調節して使用者の身体状況に合わせることができます。また座面と同じ高さまでさげることができるので、ベッド等への移乗時に大変便利です。



〈フットブレーキ〉

ドラロック

ドラムブレーキと一体化したブレーキです。介助者が足で操作します。



安全にお使いになるためのご使用方法

ご使用の前に

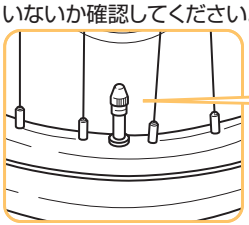
ご使用前に、安全にご使用していただくため、
次の確認をお願いします。

適正空気圧
350kPa(3.5kgf/㎠)

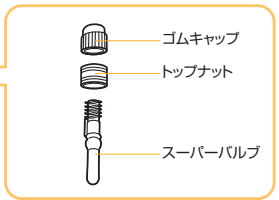
·タイヤの摩耗·亀裂はないか。
·タイヤの空気圧は適正か。
·ブレーキに異常はないか。
·ブレーキをロックした時、主輪が回転しないか。

タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、
自転車用空気入れで補充してください。

タイヤの空気バルブのトップナットが緩んでいないか確認してください。



タイヤの空気がすぐに抜けるときは、スーパーバルブを交換してください。



⚠警告

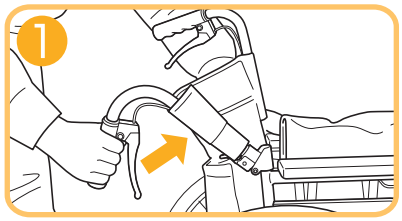
●タイヤの空気圧が少ない状態で、使用しないでください。
(ブレーキのロックが出来なくなり、車いすが動き、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

してはいけない

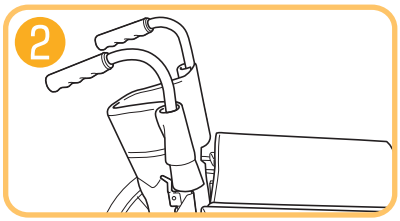
車いすの拡げ方　MH-CRシリーズのみ

*折りたたんだバックサポートを起こす時は、車いすを折りたたんだ状態で行ってください。
（拡げた状態で行うと、バックサポートにバックサポートパイプが引っ張られ、ロック出来なくなる場合があります。
また、背シートの破損につながるので行わないようにしてください。）

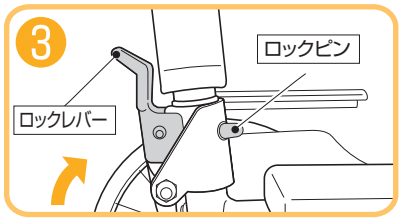
❶グリップを持ち、矢印方向に、持ち上げる。



❷バックサポートを両側起こす。



❸レバーを矢印方向に起こし、ロックピンが出ている事を確認する。



警告
●バックサポート折りたたみのロックピンが、「カチッ」と音がして、ロックピンが完全にロックされていることを確認してください。（転倒･転落の原因となります。）

していただく

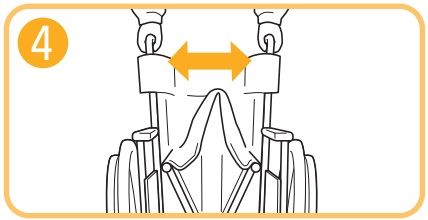
警告
●バックサポート折りたたみのロックレバーに、かばんなどを引っ掛けないでください。
（ロックが解除され、転倒･転落事故の原因となります。）

してはいけない

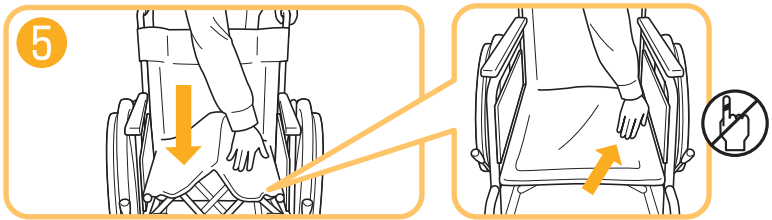
注意
●バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
（車いすが不安定になり、転倒･転落事故の原因となります。）

してはいけない

❹車いすの後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げます。



❺片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが拡がります。



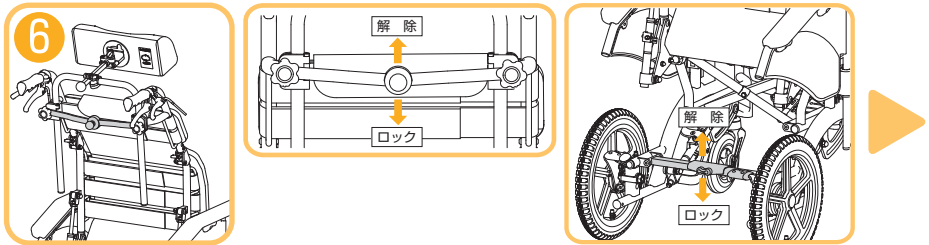
注意
●車いすを拡げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
（パイプに手や指を挟んでケガをします。）

してはいけない

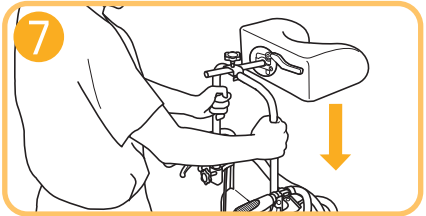
注意
●車いすを拡げた時、座パイプが受けに収まっているか確認して座ってください。
（パイプが曲がったりして、転倒･転落事故及び故障の原因になります。）

していただく

❻縮み止めを押し下げてロックします。



❼ヘッドサポートを差し込み、左右のノブネジで固定します。（※P.11注意参照）



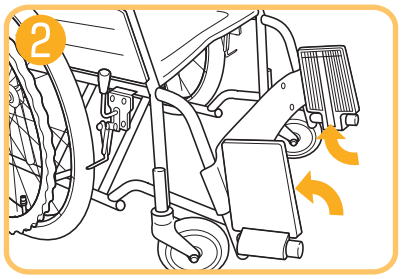
注意
●縮み止めは必ずロックした状態で使用してください。
（強度が低下し、車いすが破損する恐れがあります。）

してはいけない

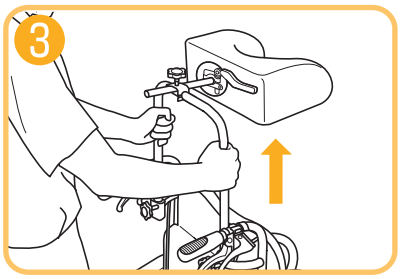
車いすの折りたたみ方

MH-CRシリーズのみ

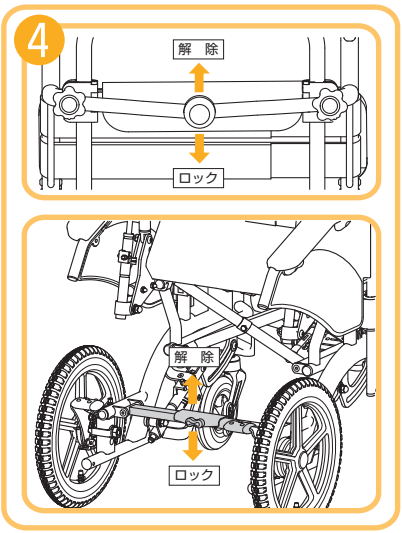
❶座クッションを取り外します。
❷フットサポートをはね上げます。



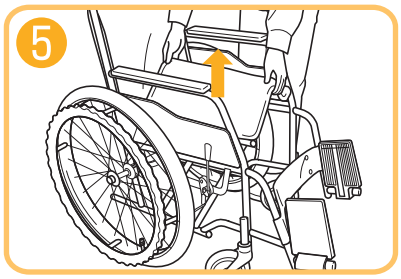
❸ノブネジを緩め、
ヘッドサポートを取り外します。



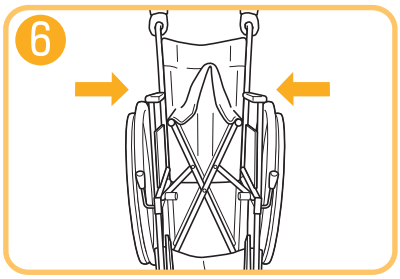
❹縮み止めを解除します。



❺シートの前方と後方の中央を
同時に持ち上げます。

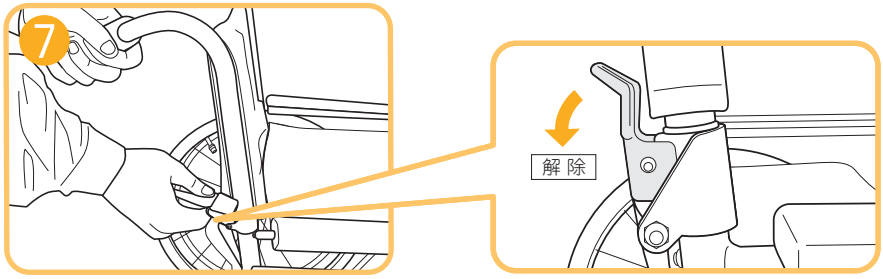


❻左右のグリップを持ち内側に
たたみます。

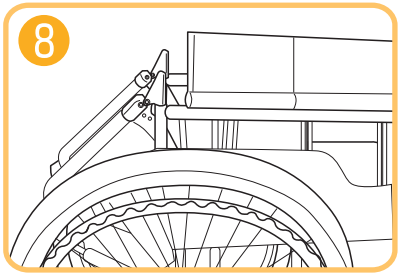


※車のトランクなどに収納する場合は、さらに高さを低く折りたたむことができます。

❼背折れのロックを解除します。



❽バックサポートを両側後方に倒す。



⚠ 注意

●保管する場所には十分注意してください。(P.19参照)
(長期間使用しなかった場合には、各部の点検をしてから使用してください。)

していただく

車いすの乗り方・降り方

⚠ 警告

●車いすに乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
（車いすが動き、転倒・転落事故の原因となります。）

していただく

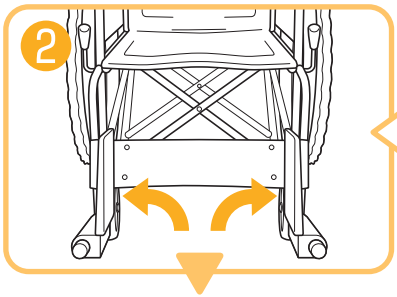
⚠ 注意

●車いすの乗り降りは、路面の平坦な場所で行ってください。
（車いすが動き、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。）

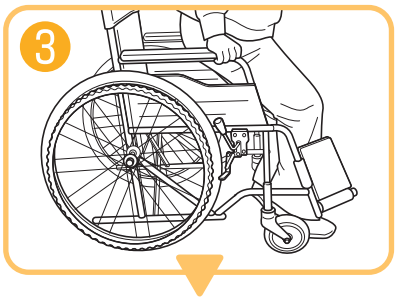
していただく

乗る時

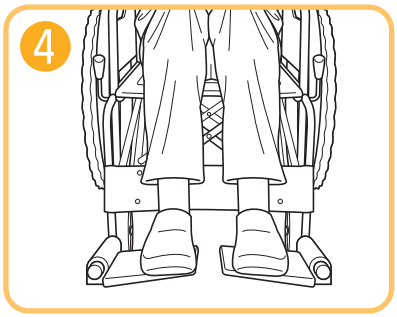
❷ フットサポートを両側上げる。



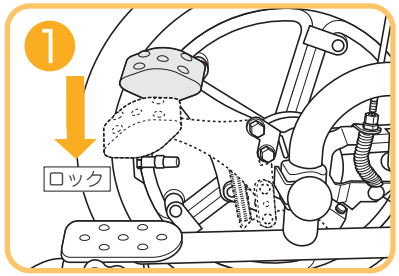
❸ 両手でアームサポートを持ち
ゆっくり座り込む。

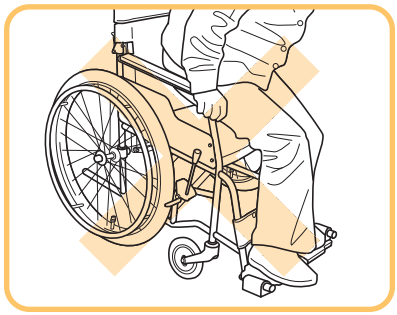


❹ フットサポートに足を乗せる。



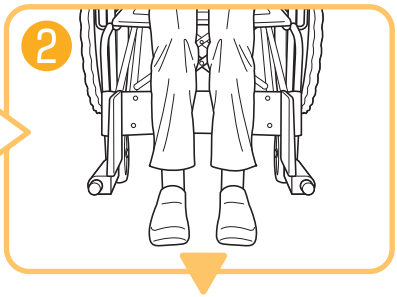
❶ フットブレーキを両側ロックする。





降りる時

❷ フットサポートを上げ、足を下ろす。



❸ 両手でアームサポートを持ち
ゆっくり立ち上がる。

⚠ 警告

●フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
（車いすがバランスを崩し、転倒事故の原因となります。）

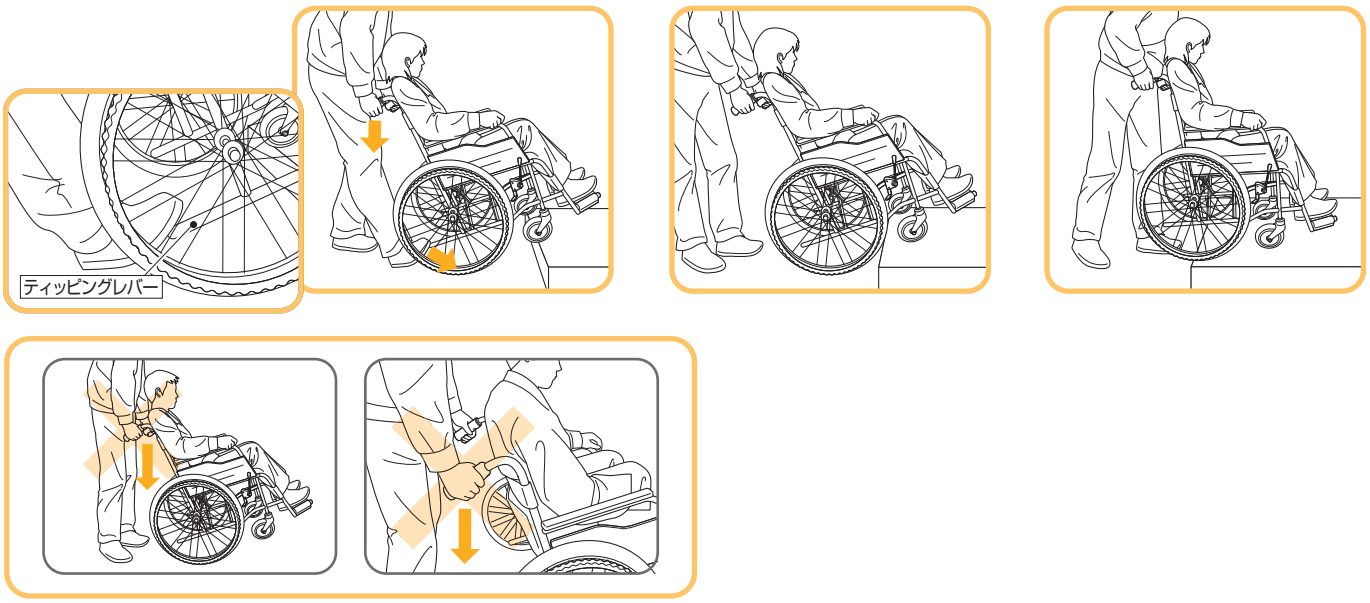
してはいけない

介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、
必ず介助者の方が付き添ってください。

・坂道の登り下り　・踏切の横断　・側溝の格子蓋の横断　・悪路　・凸凹道
・電車への乗車、下車　・段差乗りこえ　・路面が片側に傾斜しているところの走行

段差を乗りこえる場合は、ティッピングレバーを踏んでキャスタ（前輪）を上げ、
段差に乗せてから乗りこえてください。



⚠注意

●バックサポートパイプのみで、キャスタ(前輪)を上げないでください。
（バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒･転落して事故の原因となります。）

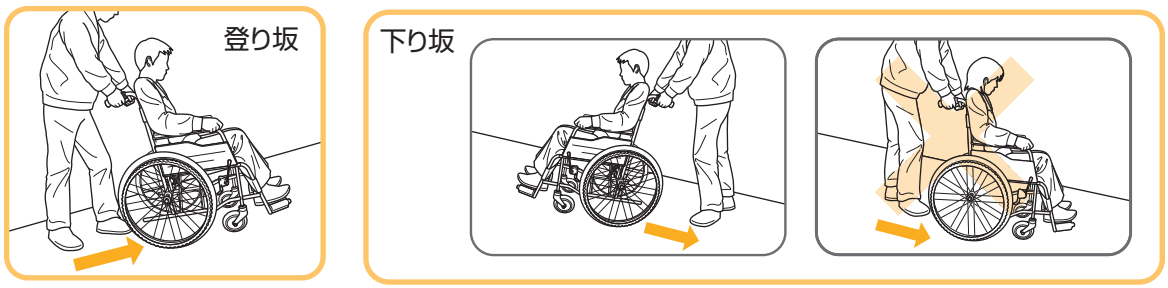
してはいけない

⚠注意

●スピードをつけて、段差を乗りこえようとしないでください。
（使用者が車いすから、転落して事故の原因となります。）

してはいけない

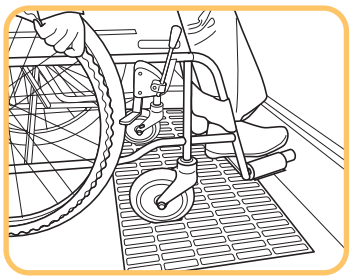
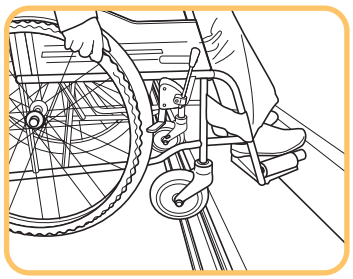
坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいてください。



⚠注意

●坂道を下るとき介助者の方はくだり坂の下側に立ち、ゆっくり確認しながら後ろ向きに
走行してください。
（前向きで下ると、乗っている人がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒･転落事故の原因となります。）

していただく

⚠警告

●側溝の格子蓋や踏切などでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいてください。
（車輪が溝にはまって、転倒･転落事故の原因となります。）

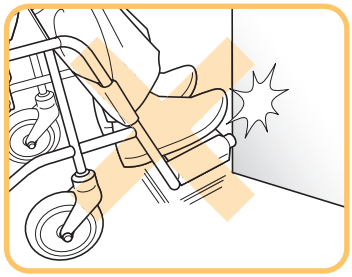
していただく

⚠注意

●側溝の格子蓋、踏切のレール溝にキャスタが落ち込まないように注意してください。
（車いすが急に止まり使用者の体が前方に傾き、転倒･転落事故の原因となります。）

していただく

※このような環境条件でご使用される場合は、ワイドキャスタ（オプション）をご使用ください。



【介助者の方へ】

⚠注意

●移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく

⚠注意

●フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

していただく

■階段などで、使用者が乗ったままの状態で、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプの固定されている箇所を持って、4～5人で支えてもらってください。

⚠注意

●必ず固定されている場所を持ってください。
ヘッドサポート、アームサポート、フット･レッグサポート、操作レバー、ブレーキなどを持たないでください。

していただく

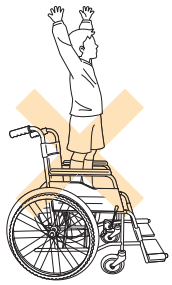
⚠注意

●車いすを持ち上げるときは座面の水平を保ち、乗っている人の転落には十分注意してください。

していただく

※重量がある場合には、人と車いすを別々に移動してください。

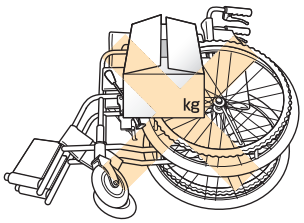
その他の注意事項



⚠注意

●車いすのシートの上で立ち上がらないでください。
（転倒･転落事故等の原因となります。）

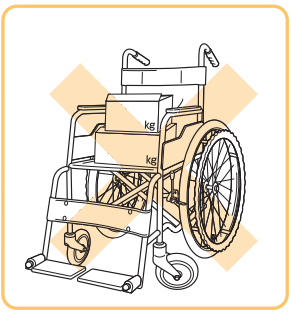
してはいけない



⚠注意

●車いすで荷物を運んだりしないでください。

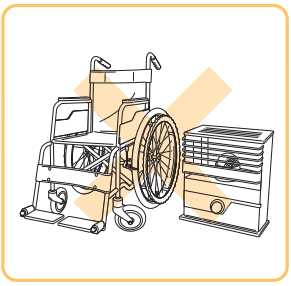
してはいけない



⚠注意

●車いすを、横向きに倒して上に物を置かないでください。
（重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。）

してはいけない



⚠注意

●火気の近くに置かないでください。
（タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。）

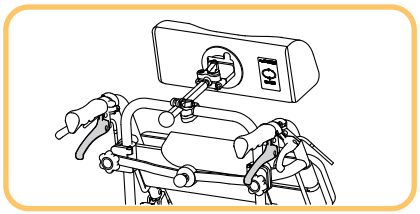
してはいけない

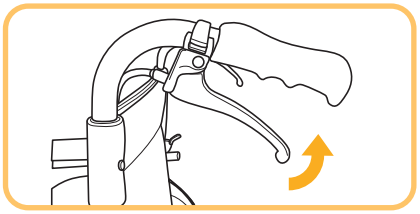
各部機能の使用方法

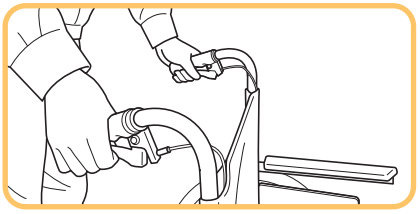
ブレーキの使用方法

制動用ブレーキ　介助者の方が走行中や下り坂での減速及び停止にご使用ください。

●レバーを握るとブレーキがかかります。　●レバーを離すと解除します。







⚠注意

●リクライニングレバー、ティルトレバーと間違えないように注意してください。
（不意にバックサポートが倒れ、転倒･転落事故等の原因となります。）

していただく

⚠注意

●急ブレーキ、急発進、急旋回をかけないでください。
（車いすに乗っている方が前方へ転倒･転落する恐れがあります。）

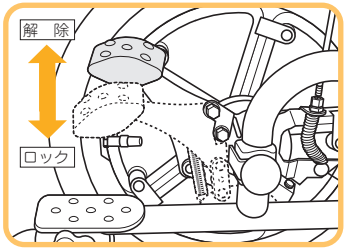
してはいけない

⚠注意

●介助者の方は、制動用ブレーキレバーを両側同時にかけてください。
（バランスを崩し、転倒･転落事故等の原因となります。）

していただく

ドラロック（フットブレーキ）



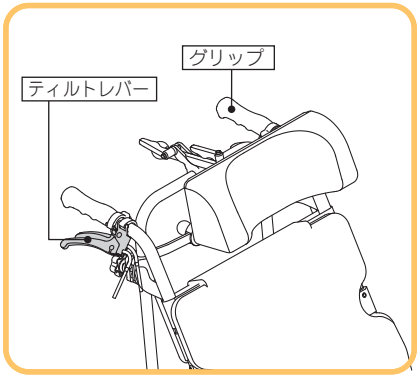
ドラム式介助ブレーキ（制動用ブレーキ）にフットブレーキを一体化したブレーキです。ドラム部分でロックするのでブレーキの制動力がタイヤの空気圧に影響されません。

●ブレーキペダルを足で踏み込むとロックします。
●上げるとロックが解除されます。

ティルティングとリクライニングの方法

ティルトレバーの使いかた

●ティルトレバー（右側のレバー）を操作することにより、座面の角度を調整します。
座面は最大30°まで傾きます。
ティルト操作のときは、ユーザーが安心できるよう、「倒します」「起こします」と一声かけてください。



❶ティルトレバーを握りながらグリップを持って、座面を倒したり起こしたりして調整できます。
❷ティルトレバーをはなすと、その角度で固定されます。

⚠警告

●ティルトレバーを操作するときは、グリップをしっかりと握って操作してください。
ティルトレバーを握った瞬間、ユーザーの体重の重みで座面がすぐに傾こうとしますので、ユーザーに不安を与えてしまいます。

してはいけない

⚠警告

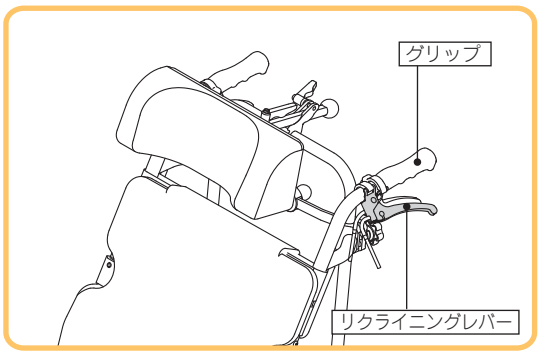
●ティルト操作のときは、必ずフットブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。
車いすが動き、危険です。

していただく

リクライニングレバーの使いかた

●リクライニングレバー（左側のレバー）を操作することにより、バックサポートの角度を無段階で調整します。バックサポートは座面に対して90～125°の範囲で調整できます。リクライニング操作のときは、ユーザーが安心できるよう、「倒します」「起こします」と一声かけてください。

※本製品は、ユーザーが車いすに乗っている状態での安全性を基準に開発されております。そのため、人が乗っていない状態では、操作はかなり重くなりますので、ご了承ください。

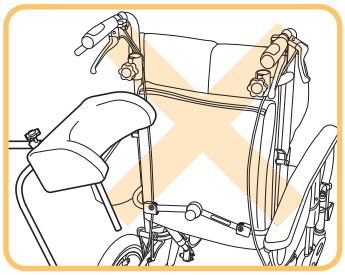


❶リクライニングレバーを握りながらグリップを持って、背もたれを倒したり起こしたりして無段階で調整できます。
❷リクライニングレバーをはなすと、その角度で固定されます。

⚠警告

●リクライニング操作のときは、必ずフットブレーキをロックし、車いすが動かない状態にしてからおこなってください。
車いすが動き、危険です。

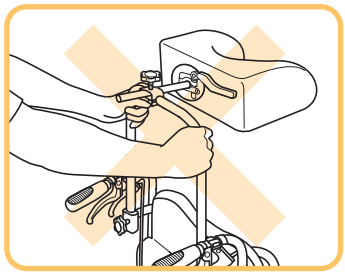
していただく



⚠注意

●ヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。
（転倒・転落事故の原因となり大変危険です。また、強度が低下し、車いす破損の原因となります。）

してはいけない



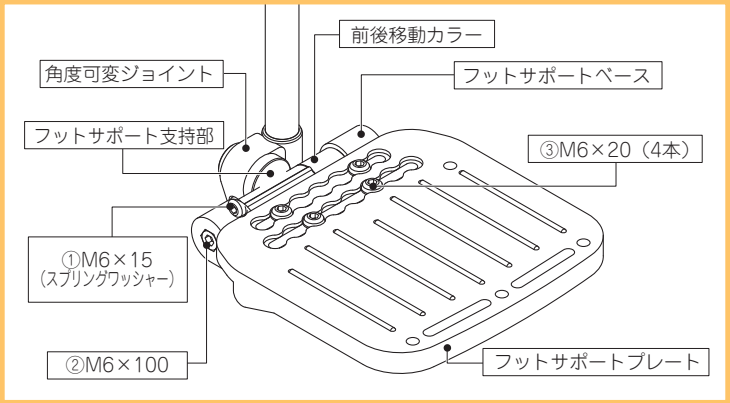
⚠注意

●リクライニング車いすの縮み止め・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。
（外れたりして、転倒・転落事故の原因となります。）

してはいけない

アジャスタブルフットサポート（前後&角度調整）

各部名称



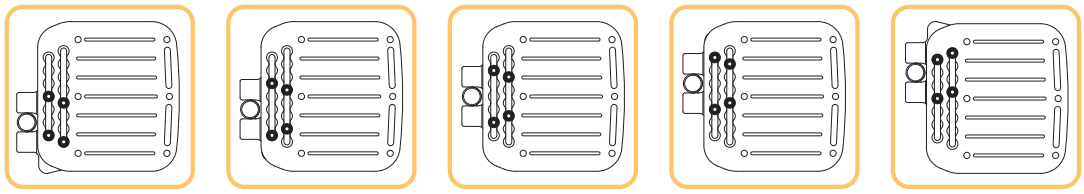
※適正トルク
①M6×15 ･･･10Nm
②M6×100 ･･･7Nm
③M6×20 ･････7Nm

前後調整方法

基本的な調整方法

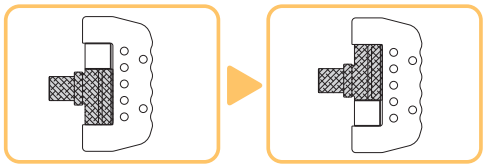
● ボルト位置

③M6×20（4本）を取り外します。このとき、フットサポートベース裏側のナット（4個）を無くさないようにしてください。
下の図のように、前後5段階に調節ができます。（13mm間隔）4本のボルトを締めてください。
※ボルト位置は図のようにできるだけ離れた位置を使用します。



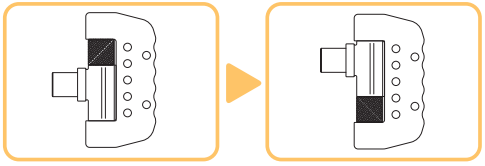
さらに調整する方法（その1）

②M6×100を取り外します。下の図のように、
前後移動カラーを組み替えることで、
さらに20mm調節ができます。



さらに調整する方法（その2）

①M6×15をゆるめます。（取り外す必要はありません）
※このとき、スプリングワッシャーを無くさないようにしてください。
左右のフットサポート支持部を取り外し、左右を入れ替えることで
13mm調節位置を変えることができます。



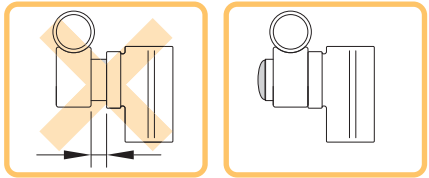
⚠ 注意

●①②③のボルトは
必ず締めて下さい。
フットサポートが外れ、
ケガをする恐れが
あります。

していただく

角度調整方法

①M6×15をゆるめます。（取り外す必要はありません）
※このときスプリングワッシャーを無くさないようにしてしてください。フットサポートプレート全体をしっかりと持ち、最適な位置へ角度を変更してください。
※このときフットサポート支持部と角度可変ジョイントの間にすき間がないようにしてください。



⚠ 注意

●すき間がある状態で使用するとフットサポートが
外れケガをすることがあります。

してはいけない

位置が決まったら、①M6×15を締め、フットサポートが動かないか確認してください。

⚠ 注意

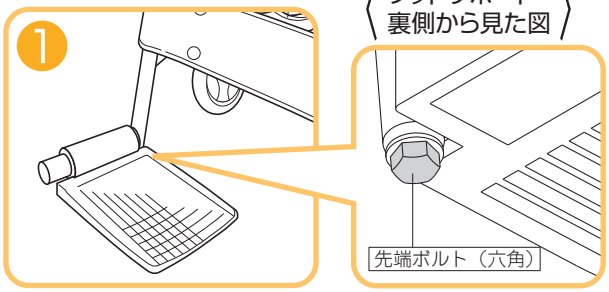
●①のボルトは必ず締めてください。
フットサポートが急に角度が変わったり、外れたりして、ケガをする恐れがあります。

していただく

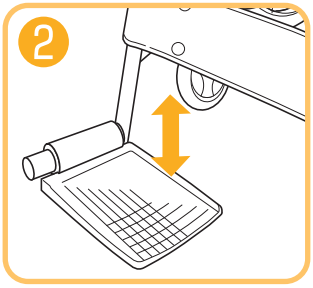
フットサポートの高さ調整

〈高さ（長さ）の調整〉

❶フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトを少し動くところまで緩める。



❷高さを調整し、先端ボルトを締める。

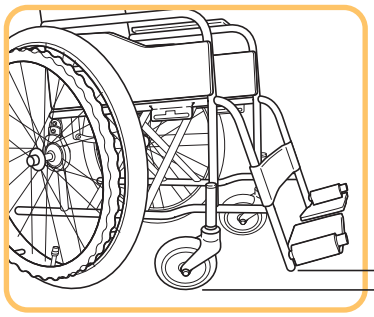


⚠ 注意

●フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
（フットサポートが脱落し事故の原因になります。）

していただく

※適正トルク 12.5Nm



⚠ 注意

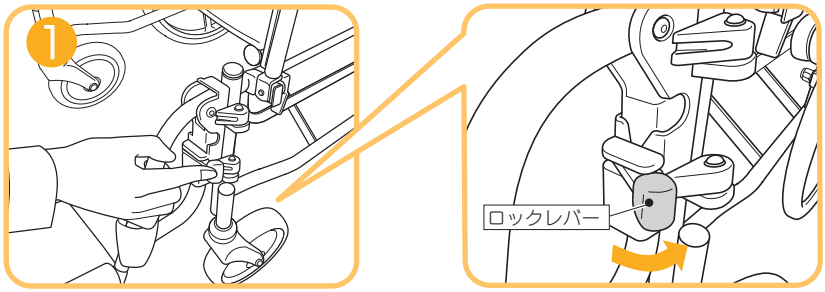
●フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
（路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車いすが止まり、転倒事故等の原因になります。）

していただく

フット・レッグサポートスイングアウト

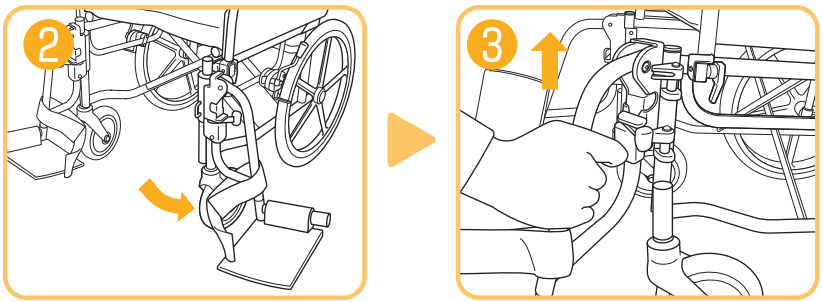
●フット・レッグサポートをスイングアウト（外開き）したり、取り外すことによりトイレ・ベッド等への乗り移りがしやすくなります。介助の場合には、足元が広くなり、移乗動作が楽に行えます。

❶ロックレバーを押し、ロックを解除します。



❷レッグサポートを開くように外側に回転させます。

❸レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



⚠ 注意

●スイングアウトを戻したときは、ロックが確実にされているか確認してください。
（足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。）

していただく

⚠ 注意

●スイングアウトや着脱・取り付け操作時に、手をはさまないように注意してください。

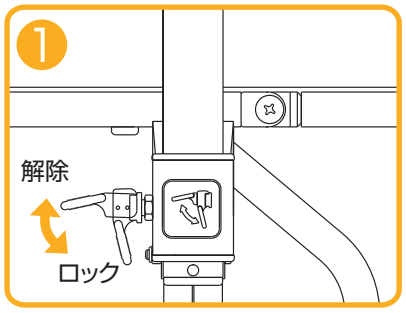
していただく

アームサポートの使用方法

アームサポートの高さ調節のしかた

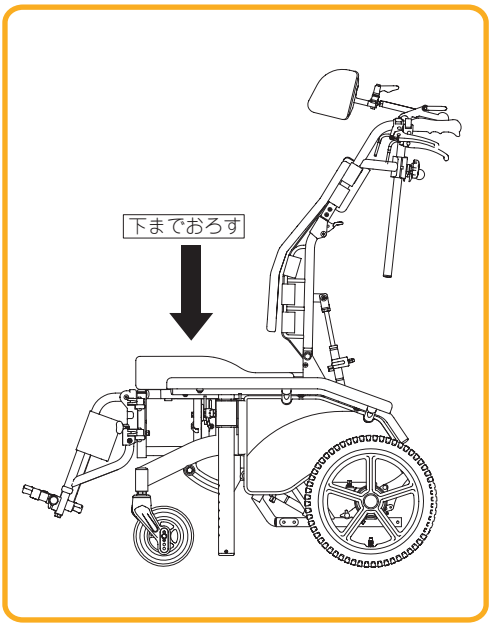
●身体状況にあわせてアームサポートの高さを4段階で調節することができます。
※さらに、座シートと同じ高さまで下げることができるので、車いすからの乗り移りを容易に行うことができます。

❶セーフティーロックのレバーを上げ、ロックを解除してください。



❷アームサポートを上下に動かして高さを設定し、セーフティーロックのレバーを倒してロックしてください。

〈乗り降りの際〉
セーフティーロックを❶のように解除し、アームサポートを最も下までおろします。



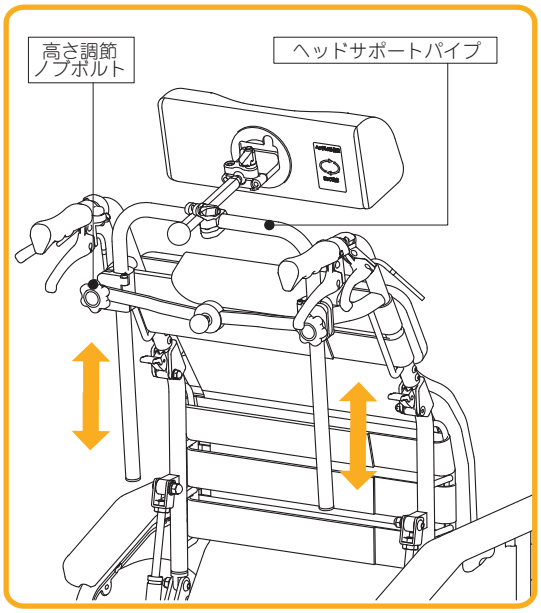
確 認 セーフティーロックが確実にロックされていることを確認してください。レバーがぐらぐらしているときは、ロックされていません。(アームサポートをもって少し上下に動かすとカチッと音がし、ロックされます。)

⚠ 注意
●アームサポートを下ろすときは、肘パットの内側に指をはさまないようにご注意ください。

していただく

ヘッドサポートの使用方法

マクラの高さ調整のしかた



●マクラの高さを調整します。マクラは首と頭を支える形状になっています。

❶高さ調整ノブボルトを緩めてください。(左右共)
❷ヘッドサポートのパイプを両手で持ち、使用者に合った高さに調整してください。
❸高さが決まったところで、高さ調整ノブネジを完全に締めてください。

確 認 調整後は、高さ調整ノブボルトが、完全に固定されているか確認してください。

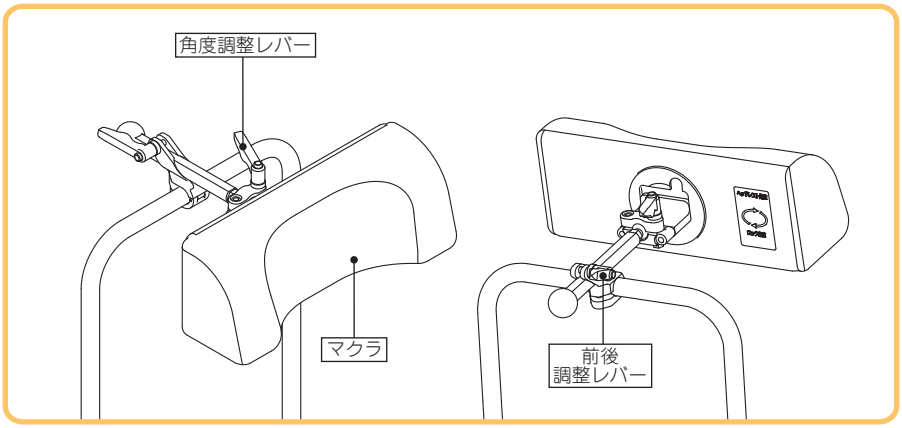
⚠ 注意
●マクラを使用しない場合でもヘッドサポートパイプは使用してください。
(フレームの破損の原因となります。)

していただく

マクラの前後左右&角度調整

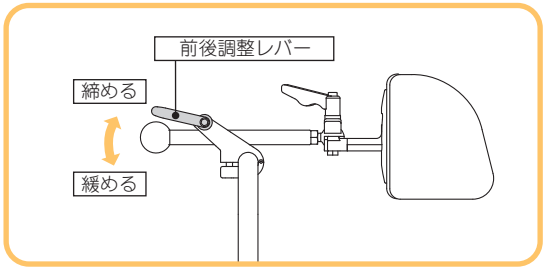
●使用者本人の身体状況に合わせて、マクラの前後左右位置や角度を調整します。

〈各部名称〉



〈ご使用方法〉

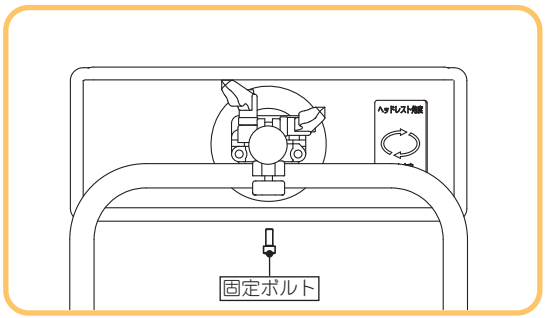
●使用者の身体状況に合わせて、マクラの前後・左右・角度を調整することができます。
次の方法を組合わせて、最適な位置でご使用ください。



<前後調整>

●前後調整レバーを緩めて、マクラの前後位置を合わせてください。
●位置が決まりましたら、前後調整レバーをしっかりと締めてください。

確 認 調整後は前後調整レバーが、完全に固定されているか確認してください。



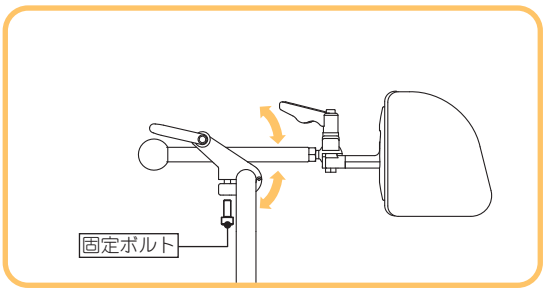
<左右調整>

●固定ボルトを付属の六角レンチ(対辺5mm)で緩めて、マクラの左右位置を合わせてください。
●位置が決まりましたら、固定ボルトをしっかりと締めてください。

※適正トルク　10Nm

確 認

調整後は固定ボルトが、完全に固定されているか確認してください。



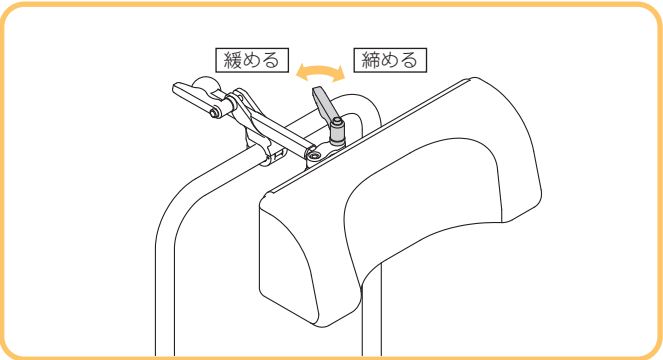
<角度調整①(固定ボルトによる調整)>

●固定ボルトを付属の六角レンチ(対辺5mm)で緩めて、マクラの角度を合わせてください。
●角度が決まりましたら、固定ボルトをしっかりと締めてください。

※適正トルク　10Nm

確 認

調整後は固定ボルトが、完全に固定されているか確認してください。



<角度調整②（レバーによる調整）>

●レバーを矢印の方向に回すとマクラが自由に動くので、マクラの角度を合わせてください。
●角度が決まったら、レバーをしっかりと締めて固定してください。

確認 調整後は調整レバーが、完全に固定されているか確認してください。

⚠ 注意

●調整後はマクラがしっかりと固定されているか確認してください。
●表記してある部分以外のボルトは緩めないでください。
（マクラが固定されず、頭や首などを痛める可能性があります。）

してはいけない

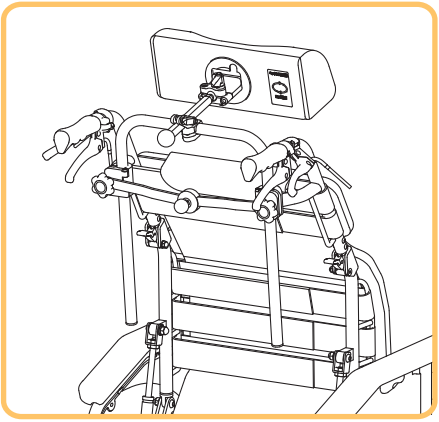
⚠ 注意

●持ち上げたり、無理な力を加えたりしないでください。
●押手として使用しないでください。

してはいけない

張り調整シート

●ベルトの張り具合によって、使用者の身体状況に合わせ、シートの張りを調整します。



背シート

❶背シート裏側（ポケット側）をめくってください。
❷マジックベルトをはがし、適度な位置に調整し、再びマジックベルトを貼り合わせてください。
※3Dモデルは左右独立の張り調整ベルトになります。

⚠ 注意

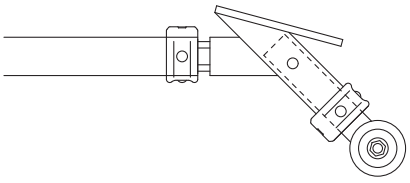
●糸くずや汚れが付いていないか確認し、付いている場合は取り除いてください。
（粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故の原因となります。）

していただく

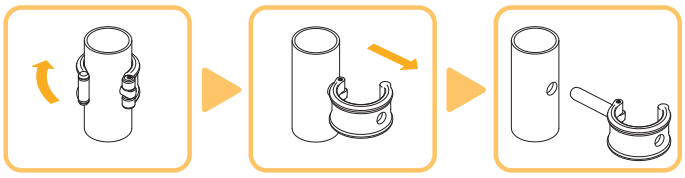
転倒防止

●バックサポートを後方へリクライニングした場合に車いすが後方へ倒れないようにします。

転倒防止の高さは2段階、
調整できます。調整は
回転式スナップピンにて行います。



〈回転式スナップピンの取り外し方〉



指を引っかけて矢印方向に回転させます。　引き抜きます。

〈回転式スナップピンの取り付け方〉

穴にピンを差し込みます。　矢印方向に回転させます。　反対側の穴にピンの頭が出ていることを確認します。

⚠ 注意

●ノブボルトまたはスナップピンは必ずしっかりと締めてください。転倒防止パイプが必ず奥まで入っているか確認してください。回転式スナップピンが入っているか確認してください。
（転倒防止が外れ、役目を果たさない可能性があります。）

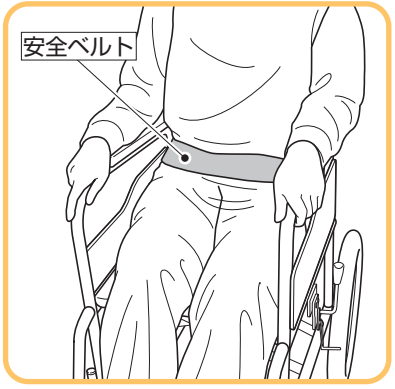
していただく

車いすのオプション

車いすをより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
（車いすにより取り付けできない場合がございます。販売店、または松永製作所までご相談ください。）

安全ベルト

●使用者が、車いすから転落したり、ずり落ちるのを保護します。



⚠ 注意

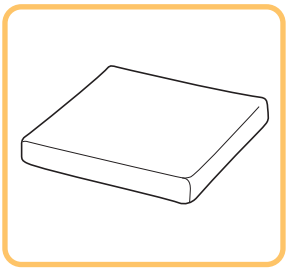
●安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
（衝撃などで転落し事故の原因となります。）

していただく

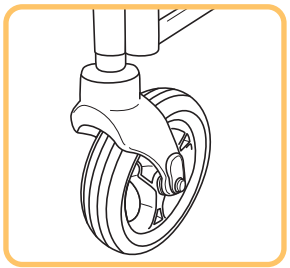
⚠ 注意

●マジック式安全ベルトは、糸くずや汚れを取り除いてご使用ください。
（粘着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ、転落事故原因となります。）

していただく



クッション
体重の圧力を分散し、快適に座ることができます。（カタログ参照）



ワイドキャスタ
タイヤ幅を広くし、溝などへ落ちにくくします。

他にも
テーブル
をご用意しています。

※詳しくは、カタログをご覧ください。

車いすをご使用されていて故障かな、と思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・スーパーバルブが劣化していませんか	スーパーバルブを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャスタに髪の毛、ビニール等が巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスタ（前輪）が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
制動用ブレーキが効かない	・ワイヤーが、ねじれていませんか	ワイヤーのねじれを調整してください
	・ワイヤーの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、摩耗していませんか	取扱店にご連絡してください
リクライニング操作ができない	・ワイヤーのねじれ、ひっかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、ひっかかりを直してください
	・使用者の体や小物などがはさまってませんか	取り除いてください。
ティルト操作ができない	・ワイヤーのねじれ、ひっかかりがありませんか	ワイヤーのねじれ、ひっかかりを直してください
	・使用者の体や小物などがはさまってませんか	取り除いてください
	・車いすに人を乗せていますか	車いすに人を乗せていない状態では、操作が重くなります

車いすのお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。
揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。変色・劣化の原因となります。
ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部等に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤは最適空気圧を保ってください。 (P.4)
空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤにはひび割れを防ぐために老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- ●オゾン（O_3）
- ●光線（日光）、熱・伸張等の機械的作用。
- ●銅・マンガンのような金属の塩、石鹸などの容易に酸化される物質。
- ●シリコン系ワックス（自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤、錆落としなど）。

■車いすに異常がある場合は、取扱店で、点検・修理を行ってください。
その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- ●タイヤの劣化・ひび割れ・エアー漏れ
- ●フレームのひび割れ・曲がり・がたつき
- ●各部固定部品の変形
- ●駆動輪・キャスタの変形
- ●ボルト・ナット・ネジの緩み
- ●制動用ブレーキ・フットブレーキの効き具合

シートのお手入れのしかた

●シートの生地には、ポリエステルとビニールレザー(マクラ)を使用しています。
それぞれ、お手入れのしかたが異なりますので、ご注意ください。

ポリエステル(座のみ)

※シート類を洗うときは、次のことに注意してください。

■座シートの内部ウレタンを外してから洗濯してください。
■洗濯マークの表示を参照して洗濯をしてください。
■オスマジックテープ(手で触った場合硬い方)は、洗濯中に他のシートを傷つけてしまいます。
オスマジックテープには、当て布をするか、ネットに入れてください。

ポリエステル(背シート)／ビニールレザー

●洗濯機のご使用は避けてください。

■固くしぼった布で軽く拭いてください。毎日お手入れしていただくと長く清潔に使っていただけます。

※汚れがひどい場合、次のことに注意してください。

うすめた中性洗剤で拭き、空拭きをして陰干ししてください。
アルコールやベンジン等の溶剤や漂白剤は使用しないでください。
特に油(頭、手アカ等を含む)汚れは簡単に落ちないため、汚れたらすぐに拭きとるようにしてください。

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

●雨に濡れるようなところ　●直射日光が当たるようなところ　●湿気の多いところ
●高温室になるところ　●炎天下なところ

保証について

保証

●保証期間は、お買上げ後1カ年です。(本体、付属品共)
ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの摩耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、リクライニング用ワイヤー、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費

●この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。

愛の輪 愛のいす
MATSUNAGA
株式会社 松 永 製 作 所
〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484
TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270
URL http://www.matsunaga-w.co.jp

車いす　点検シート

安全にご使用していただくために、ご自身・お買い求めの販売店（有料）で定期的に点検をしていただくようにお願いします。
（長期間ご使用にならなかった場合は、ご使用前に点検をしてください。）
点検の結果、異常があった場合はご使用にならず、調整・部品交換をしてからご使用ください。

点検項目 ＼ 年月日 / 点検者						
キャスタ（前輪）	亀裂・キズの有無					
	キャスタの摩耗					
	スムーズな回転					
フォーク	損傷の有無					
	スムーズな旋回					
主輪（後輪）	タイヤの空気圧					
	タイヤの摩耗					
	スムーズな回転					
	スポークの緩み（自走のみ）					
フレーム	各部キズの有無					
	ボルト・ナットの緩み					
	スムーズな折畳み					
操作部	可動部のがたつき					
	ボルト・ナットの緩み					
連結部	がたつき					
ブレーキ	ブレーキの効き					
シート	シートの破れ・損傷					
	シート固定ネジの緩み					
フットサポート	固定ボルトの緩み					
	プレートの破損					
アームサポート	固定ボルトの緩み					
	パッドの破損					
その他						